

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月18日

協議会名:佐渡市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新潟交通佐渡㈱	<p>系統名:国仲・金丸線 運行区間:佐和田BS～佐渡病院～新町学校前～新穂小学校前～佐和田BS</p>	<p>R1に引き続き「病院乗り入れ便のご案内」についてチラシを作成し、市内全戸及び各病院等へ配布した。</p> <p>学生ワイドフリー定期券及び障がい者割引運賃制度(割引拡充)を継続。学生のバス利用を取り込むため、新規の対象者(高校)へ中学校及び中等教育学校を通じて制度の案内を実施し、利用促進を図った。</p> <p>路線バス利用促進の一環として佐渡テレビデータ放送への時刻掲載を本格的にスタートした。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 目標利用者数:20,000人 R2利用者数:17,076人(達成率:85.4%) R1利用者数:19,460人(達成率:97.3%)</p> <p>10月から2月までは前年を上回っていたが、3月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出の自粛や休校による利用者の減少が顕著であった。</p>	<p>継続して実施している「病院乗り入れ便のご案内」チラシ及び学生ワイドフリー定期券については、路線バスの利用促進に繋がる施策であるため、引き続き周知、PRに努める。</p>
新潟交通佐渡㈱	<p>系統名:宿根木線① 運行区間:羽茂高校～小木港～宿根木～江積</p> <p>系統名:宿根木線② 運行区間:小木港～宿根木～江積</p>	<p>小木直江津航路海上時化等の際に、路線バスの接続について事業者間の連絡体制の確保によりスムーズな対応、接続が図れた。</p> <p>地域内交通の具体的整備に向けた検討を進めるため、地域の団体と協議を開始した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 目標利用者数:5,700人 R2利用者数:5,315人(達成率:93.2%) R1目標利用者数:4,200人 R1利用者数:2,612人(達成率:62.2%) ※R1は小木港と宿根木の乗降数値を目標としていたが、R2からは路線総員数とした。</p> <p>10月から3月までは前年を上回っていたが、4月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光需要の減少が顕著であった。 観光需要が減少したことによりその影響は大きく、生活路線としての役割の見直しが必要である。 また、生活路線としての主な利用者は通学や買い物といった目的の者であり、外出の自粛や休校による利用者の減少も影響した。</p>	<p>生活路線としてのニーズの掘り起こしが必要である。車両の小型化や自動運転などの導入も検討し、より地域に即した交通体系になるよう取り組みたい。また、学生ワイドフリー定期券の周知に努めるとともに、より地域に密着した路線バスの運行ができるよう地域住民と連携を図りたい。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月18日

協議会名:	佐渡市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鉄道の無い当市においては、学生や高齢者など運転免許を持たない交通弱者にとって通学や通院、買い物などの日常生活における主たる移動手段は路線バスであり、公共交通システムとしての路線バスの果たす役割は、本土の他地域に比べ非常に大きいものがある。</p> <p>国仲・金丸線は、地域間幹線の本線と佐和田バスステーションで接続する路線であり、主な利用者である学生や高齢者の通院等の移動手段として公共交通を確保するものであり、また、当該系統を運行する車両としてノンステップバスを新たに導入し、バリアフリー化を図っているものである。(車両原価償却費補助金はR1で終了)</p> <p>宿根木線においては、佐渡汽船の運行時刻に接続するようダイヤを見直すとともに、終点を沢崎からこれまで運行の無かった江積・白木集落まで延伸及び金田新田まで迂回したことで、交通空白域の解消を図っている。</p>